

「地域づくり協議会 準備委員会」から「地域づくり協議会 WAO!」への繋がりはおおよそこのように考えています。

地域づくり協議会準備委員会

地域づくり協議会

寺子屋講座の開催

《テーマ》
 ー協働の地域づくりー
 ー地域づくり協議会の目的ー
 ー準備委員会の活動ー
 《日時》
 平成 22年 3月 6日(土)
 午前 10時から
 《会場》
 地域福祉センター やすらぎ
 ※市長も参加する予定です

1. 寺子屋講座の定期的開催(年間3回程度)
2. 町内のサークル活動やボランティア活動についての情報収集と情報の還元
 わだいすき, チラシ, ホームページなどで活動を知らせる
3. 「町文化祭」などのお手伝いができないがどうか、検討していく

アンケートの実施

《テーマ》
 ー地域の安心・安全についてー
 ・地域の全家庭対象です
 ・回覧を使って配布します
 ・回覧を使って回収します
 ※地域づくり協議会の考えを地域の皆様にご存知いただくのも、目的の一つです
 ※3月6日にも、これまでの取り組みを報告します

1. アンケート分析した結果と班で考えてきたことを合わせ、行動計画をつくる
 アクション
2. 行動計画を町民に知らせ、新たな参加者を募っていく
3. 和田町の高齢化に伴う諸課題を洗い出し、「ひとりぼっち」にしない手だてを検討していく
 (老人クラブの会合、ボランティアグループなどを訪ねヒアリング)

賑わいイベントの実施

《テーマ》
 ーありがとう さよなら わだ役場ー
 《日時》
 平成22年4月25日(日)
 ※庁舎移転の進行状況により変更があります
 《内容》
 ・庁舎へのメッセージ(壁面等)
 ・アトラクション
 ・出店(希望団体募集)

1. 和田の人々の絆を維持したり高めたりするイベントを展開する
 ※『ありがとう さよなら わだ役場』から得られたノウハウ・反応を元に、和田地域住民の絆が強まるような企画で
2. 内なる元気を高める企画・実践をし、コア施設を中心とした賑わいを盛り上げる
 ※ 昔料理の掘り起こし
 ※ 物販・飲食施設との連携で、メニュー開発やイベントの開催

生きがい班

安心・安全班

賑わい班

和田地域づくり協議会準備委員会

全体会議開かれる

去る二月四日(木)、地域づくり協議会準備委員会の全体会が開かれました。そこでは、協議会発足の礎となる『協議会の名前』『全体目標とグループ(班)目標』として『当面の行動計画』が提案され、承認されました。

準備委員会は、この後更にグループ(班)ごとに『協議会発足後の行動計画』などを検討し、発足のための全体会を開催することになります。わだいすきの紙面を借りて、承認された内容を報告したいと思います。

会の名前

和田地域づくり協議会
WAO!

会の目標

ワイワイと
温かみのある おらが町

グループの目標

安心・安全班

手を取り合い

誰もひとりぼっちに

しない町



生きがい班

賑わい班

学び合い 活動し合える めぐもりの町

お年寄りから子どもまでが集い
ともに生きるまち

『安心・安全班』の「誰もひとりぼっちにしない」という一節は、今、地域社会から失われつつある「人と人のつながり」を大切にし、精神的にも物理的にも孤立した状態の人達をなくしていくことを願いを表しています。

また、「生きがい班」の「学び合い」は、生涯を通じて学習し続けることの大切さを、そして「活動し合える」は、座学だけではなく動くことを通して関わり合うことの大切さを唱えています。最後の「賑わい班」の「お年寄りから子どもまでが集い」は、どの世代もが集えるような企画と場所をつくり、そこに「ともに生きる」は、いろいろな能力や個性が認められ、輝けるような地域の活性を願っています。具体的な活動は、こちらをご覧ください。

わだいすき1月号では、和田地域の状況を統計から見ました。今号では、南房総市の財政状況を予算収支の推移から見ました。(内面)



南房総市の年度予算と内訳の移り変わり

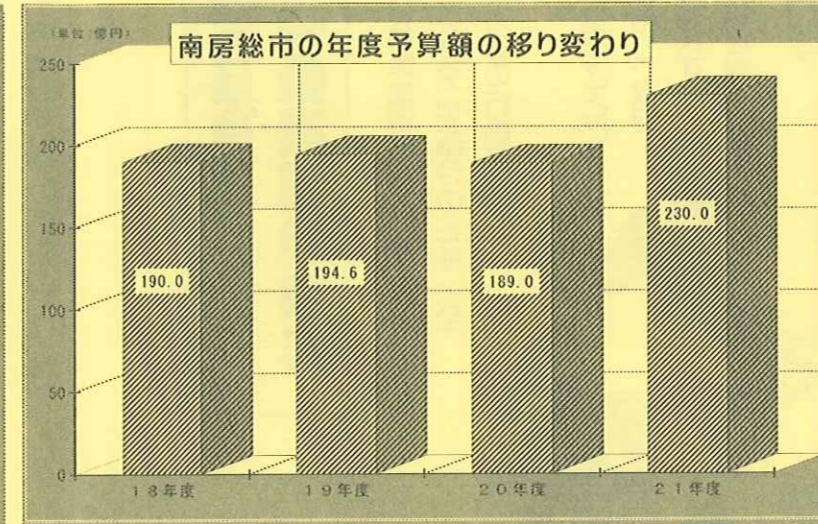
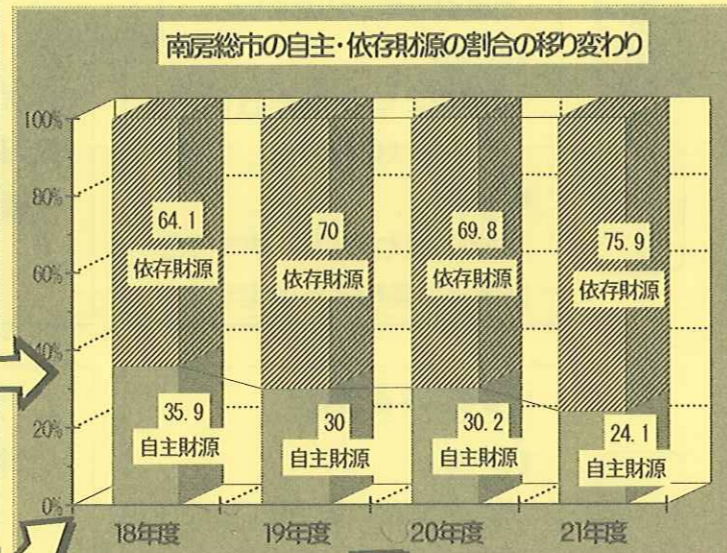
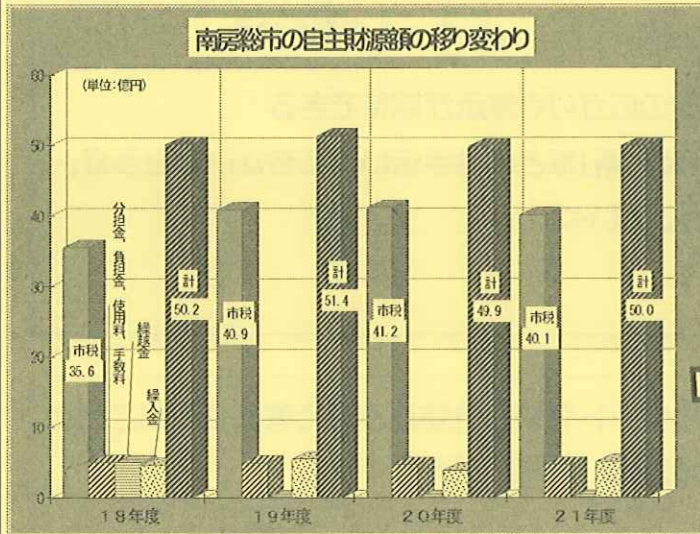
自主財源: 市が自分の力で集めることのできる財源です。市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料繰入金、財産収入などがそうです。

依存財源: 国や県から交付されたり、割り当てられたりする収入のことです。地方交付税や地方譲与税、国県支出金、市債などがそれに当たります。

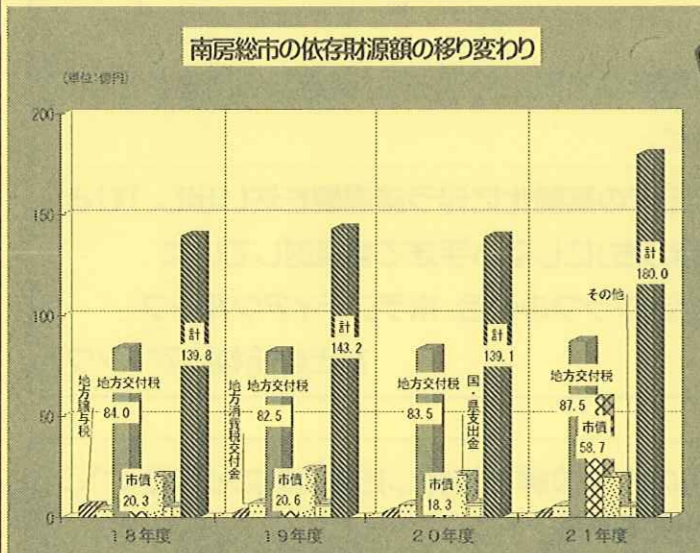
南房総市の家計簿(?)は、どうなっているのでしょうか!?

南房総市の基本構想に「市民と行政とが協働して地域づくりを行う」ことが掲げられています。それは何故でしょうか？ほとんどの地方公共団体は、自力では財源の確保ができず、その運営はよく3割自治などと言われ、国や県の交付金に約70%を頼っているのが実情です。下のグラフからも分かるように、南房総市もまさにそれが当てはまります。その状況は、3割自治どころか、今、2割5分を切っているのです。残念ながら、現在の南房総市の状況からは財源回復の兆しは見えません。つまり、南房総市の家計はますます苦しくなっていくことが予想されるわけです。そこで、市民の皆さんと行政との協働により地域の力を保ち、更には伸ばしていこうと考えているのです。下のグラフからも、市の奮闘ぶりやうかがわれます。

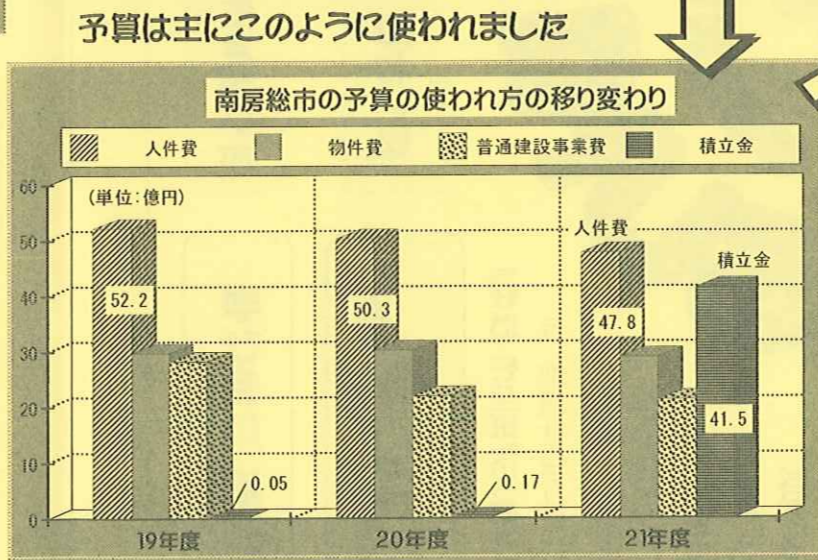
平成21年度の南房総市の予算は約230億円です。



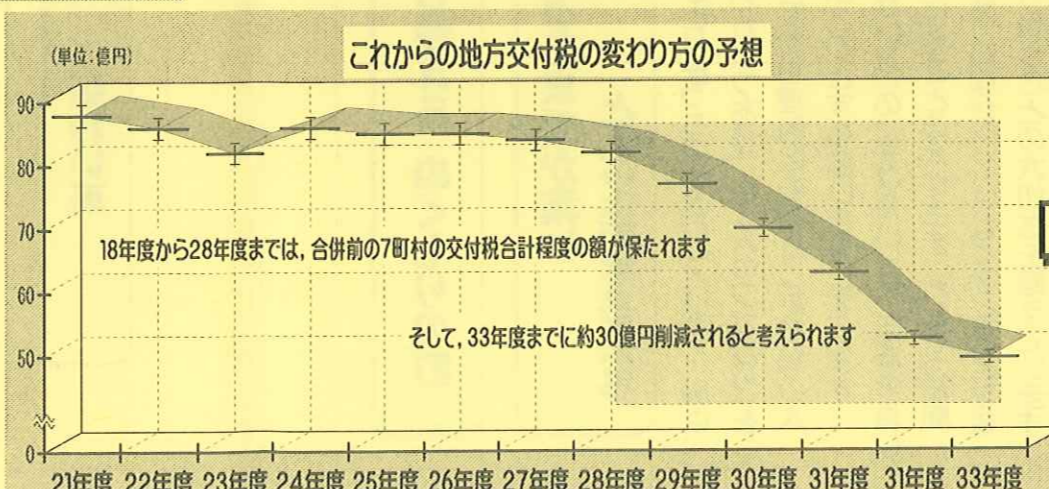
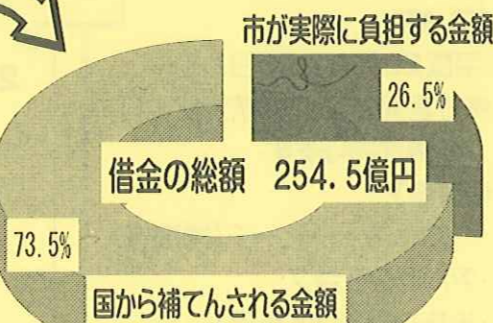
20年度まで減少傾向にあった予算が、21年度には大きく増えています。これは主に積立金が増えているからです。21年度の積立金の額は、約42億円です。積立金は、現在の約52億円になります。積立金には、市の事業を行うための基金や、将来の健全な財政運営のために積み立てておく調整基金・減債基金があります。21年度は、市民活動の支援や地域産業の活性化事業のため、「元気なまちづくり基金」を設置しました。また、予算の使われ方では、人件費・物件費・普通建設事業費が年々減っています。これは行政改革の一環として、箱物事業の削減や組織のスリム化などの運営努力によるものです。ちなみに職員数は、合併時には約710名であったものが、現在約640名と70名程度減少しています。



南房総市の自主財源の割合は、合併以来、年々減ってきていることが分かります。これは主に、市税収入が減っていることが影響しています。一方、地方交付税は合併以来80億円を上回る額が交付され続けています。また21年度には、市債の発行額が58億円と急増し、依存財源の額が大きくなっています。これは、合併を伴う財政支援措置として合併特例債(返済の際の優遇)を活用することができるため、南房総市では21年度に「元気なまちづくり基金」を設置したことによるものです。



人件費: 職員の給料などにかかる費用です。
物件費: 光熱費、消耗品費、通信運搬費などです。
普通建設事業費
 ; 幼・小・中学校の立て替えや大規模改築、道路の整備・建設など都市基盤の整備・農業農村基盤整備にかかる費用です。
積立金: 各種基金への積み立てです。



現在、南房総市の借金は約255億円ですが、合併特例措置により、返済額の70%強が国により補てんされます。つまり、借金額の30%程度返せばよいということです。しかし、合併による地方交付税増額の特典は、29年度から徐々に減らされ、33年度には50億円前後になると考えられます。南房総市の適正予算規模は、150億円程度だそうなんです。財政規模縮小への努力は、まだまだ続けなければなりません。